

住宅等を対象とした強盗事件対策

3月の防犯対策



令和5年3月1日発行
(公社)滋賀県防犯協会



広域強盗事件が相次ぐ

全国各地で相次いで発生している広域強盗事件は、殺人にも発展するなどして治安への信頼が揺らいでいます。

報道によれば、「闇バイト」の若者たちを使った特殊詐欺グループによる犯行とみられ、フィリピンを拠点にしていた指示役らが警視庁に逮捕されました。

しかしながら、今年に入っても特殊詐欺の二重電話や被害は増加している状況で、滋賀県内にも身近なところに特殊詐欺グループが潜んでいることが考えられることから、滋賀県内でも強盗事件が発生する可能性は否定できません。

そこで、今回は住宅等を対象とした強盗事件対策として各都府県共通の防犯情報を発信してまいります。

在宅時でも施錠するなど戸締まりを徹底すること

住宅侵入犯罪の50%が無施錠被害となっています。まずは簡単に侵入される隙を作らないことです。

ゴミ出しなどちょっとした外出、又在宅中でも鍵をしっかりかけることが大事です。

訪問者に対して不用意にドアを開けないこと

配達を装って侵入することがあるので、荷

物を受け取る際もドアを全開にせずチェーンをかけて対応したり置き配を利用したりします。

身に覚えのない来訪者には「絶対に開けない」と、そして、ドアスコップやインターフォン越しなどで対応し、制服や身分証を確認するようにしましょう。

外出先から帰宅した際は背後や周囲に人がいないか、よく確認すること

犯人が帰宅を待ち伏せして押し込むことも考えられますので、外出先から帰宅したときは周囲に人がいないが注意をすることが必要です。

「おはようございます」「こんにちは」など人を見かけたらあいさつすることや時々振り向いて周囲を警戒する行動も犯人らに警戒心の強い人だとアピールすることになります。

電話等で在宅状況、家族の状況、資産状況を聞かれても答えないこと

犯罪グループは、同窓会や社員名簿、町内会名簿などを入手しアンケートや調査を装って電話やメールで、家族の有無、タンス預金などの個人情報を集めてターゲットを絞り込んでいるとみられます。

銀行や警察を名乗る電話等でもアンケート等に不用意に答えない、個人情報等を抜かれないようにすることです。

また自宅に必要な以上の現金を置かない 不審を感じたときには、ためらうことなく110番通報すること

侵入を防ぐ防犯設備

泥棒は、侵入に5分以上かかると7割が諦める傾向にあると言われています。また、光や音、人目を嫌うこともわかっています。

窓用防犯アラーム

窓ガラスに防犯アラームを取り付けておくことで、窓ガラスを割られたり、窓を開けられたり異変が起こると大音量で音が鳴るため、犯行を断念させることができます。

窓用補助錠

昨窓のサッシに取り付ける補助錠で簡単に設置することができます。たとえ窓ガラスを割られ、クレセント錠を開けられたとしても、補助錠で窓が開かず、困惑して犯行を断念させることができます。

窓ガラス防犯フィルム

窓ガラスに防犯フィルムを貼っておけば、犯人がガラスを割ることに時間を要するため犯行を断念させる確率が高まります。

センサーライト

センサーライトは夜に威力を発揮します。犯人は光で姿を照らされることを嫌がるので家に近づこうとしません。

防犯カメラ

防犯カメラを設置することで防犯意識の高い家であることをアピールすることができ、犯人の行動を記録として残すことができるため非常に有効です。最近では手ごろな価格の防犯カメラも販売されています。

